

# 2022 神戸学院大学客員教授報告書

台湾師範大学 准教授林伯修

コロナ禍の影響で2021年3月ごろから各国の国境が封鎖され、今までの世界中での交流は急に中止になり、さらに早くも2年半を経てしまいました。神戸学院大学社会学部の前林学部長に招聘され、2022年6月に日本に来ることができました。4年ぶりにまた神戸に来ることができ、とても幸運に思い、嬉しく懐かしい気持ちが胸に溢れました。

この報告書には二つの内容が含まれています。一つは授業の内容、もう一つは個人の感想です。

まず、今回の授業の内容ですが、今回の授業の前提は次のとおりです。台湾は、1999年大震災が発生し、各国から救援を受け、翌年に国は救援隊を設立し、国際救援を始めました。同年、12月に当時のオリックス・ブルーウェーブとイチローは台湾で義援試合を3試合行い、メディアを通じて台湾人を感動させました。その後、2011年東日本大震災の時、台湾人は沢山の義援金を日本に寄付しました。講義中に、台湾と日本共に地震、断層、火山、土砂災害、洪水等の天然災害が頻発している国同士であり、災害が起こったらお互いに協力し合い、さらに震災を通じて両国の深い絆を築いたことを学生に知ってもらったうえで、台湾と日本の友好関係をさらに深めていくために、授業を展開しました。

## 社会防災の基礎 I

台湾における自然災害の歴史と現状について概観しました。そのうえで、台湾の防災対策について伝統的対策と近代的対策について、そこにみられる課題を論じました。

## 入門ゼミナール I

学生の研究課題に関して、コメントをしつつ、台湾の大学の教育方法との違いを論じました。

## 入門ゼミナール I × 3 (消防学校)

社会防災学科の教員とともに、消防学校へ学生を引率し、指導しました。

特に、台湾と日本の消防のシステムの違いについて教えました。

## アクティブラーニングの方法 × 3

学生のアクティブラーニングに関する助言を行い、また現地調査において、調査の仕方について指導しました。

#### ゼミナール I (合同)

台湾における自然災害の歴史と現状について概観しました。そのうえで、台湾の防災対策について伝統的対策と近代的対策について、そこにみられる課題を論じ、その後学生と討論しました。

#### ゼミナール I

学生の研究内容に対して各々の学生に助言をしました。

#### ゼミナール V × 2

学生の卒業研究に対する指導と助言を行いました。

#### 国際協力論 I

台湾における国際協力の現状と課題について、主に日本に対する東日本大震災時の災害ボランティアについての講義を行いました。

#### ボランティア論 I

台湾におけるボランティアの現状と課題について、特にスポーツボランティアを中心の講義を行いました。

次に、個人の感想ですが、現代社会学部の学生は文武両道で、とても素晴らしい大学の教育を受けている、と実感しました。彼らは、講義中ノートを取ったり、質問をしたりしながら勉強し、そして三宮付近における津波の現場調査及び制服を着て消防学校で実習を行う姿が、特に心に残りました。しかも水本先生など 3 人の先生も台湾で震災と防災の研究を行ったことがありました。やはり災害の研究は台湾と日本ともに避けられない永遠のテーマであることを実感しました。前林先生からいただいた震災と防災等に関する本を読むと、神戸学院大学現代社会学部の社会防災学科はとても先見性を持ち、自分たちの身を守り、そして社会貢献に役立つ学科であることに感動しました。

最後に、台湾に帰国後は、さらに台湾における防災研究に取り組み、機会があれば来年もまた、神戸学院大学の先生、学生たちと学術交流及び文化交流をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。